

「はあ……はあ……ふう……♡」

「ふふふふふ……♡ 精液いっぱい出しちゃいましたねえ♡ 私とキミのザーメンで水たまりができますね。とっても臭くていい匂い。」

「そんなによかつたんですねえ♡」

「お疲れのようですが、突っ伏してないでこっちを見てくださいね♡ いよいよ最後の試練です」

「第四の試練の内容は、高潔を示す」とですよ」

「ロウソクが燃え尽きるまで、誘惑に抗ってください。「決して自分からおねだりするようなことがあつてはいけません♡ 誘惑に打ち勝つてこそ、キミ自身の高潔さが証明されるのです。これが試練の内容となっています」

「ふふふふふ 今回のロウソクは……大きさは二倍くらいありますねえ♡ 太さは……私のおちんぽと同じくらいでしようか?♡」

「とても簡単な内容です……少し我慢すればいいだけ、ですからね……♡ ええ、キミなら乗り越えられるでしょう」

「では、ロウソクに火を灯しますね」

「このロウソクが燃え尽きるまで絶対に“アナルでふたなりチンポをおねだりしてはいけません”

「ええ、ええ♡ 簡単ですよね？ ふふふ♡」

「これだけ大きなロウソクです、きっと我的おちんぽをキミのアナルにズボズボしてもらえた後、何度も、何度も絶頂することはできると思つても……」

「決しておねだりしてはいけませんよ?♡ ふふふふふ♡」

「ああ、それと……言い忘れていましたが、この試練に失敗したら光の女神の使徒にはなれません。と同時に、キミは私のオナホになつていただきます」

「そうです……オナホです……♡ ふふふふふ♡」

「おちんぽを奉仕するだけの穴になる、といふことですよ♡」

「お口も、おても……もちろんそのケツ穴も全部使って、毎日おちんぽに奉仕するんです……♡」

「それくらいの覚悟は持つておいてくださいね♡」

「ふふ♡ 今キミの目の前にある、このガチガチに勃起したふたなりチンポ……♡ これをアナルに入れてもらいたいと思つてはダメなんですよ?♡ 仮にズボズボされたい、思いつきり突き上げられたいと思ったとしても……自分から誘惑するようなことがあつてはダメなんです……♡」

「……あら? あらあらあら……♡」

「どうしたのですか? 自分からそんなにアナルを広げて……♡ そんなに私のおちんぽを入れて欲しいのですか?♡ いやらしく腰をくねらせるなんて……♡ それでは失格になってしまいますよ?♡」

「……本当に、いいんですか……?♡」

「はい、信徒くん……♡ 今回の試練は失敗です……♡」

「キミは自分からオナホになる道を選んでしまいました……♡ とても残念です……♡ キミならば簡単に乗り越えられると思つっていましたから……♡」

「ふふふふ♡」

「なんてイケナイ子……♡ こんなにあさましくお尻を差し出すなんて……♡ ひくひくお尻のしわが動いていますよ? 試練が失敗したのにも関わらず、期待しているんですか?」

「獣のように息を荒くして……♡ ええ、ええ♡ なんていい子なんでしょうか♡ これほど褒美をあげないと……♡」

「はあ……♡ とっても可愛い信徒くん……♡ 試練はダメでしたけど……私はとても嬉しいですよ……♡ では……期待通りに、ふたなりチンポで、キミのアナルを犯してあげますねえ……♡」

「んつ♡ ああつ♡ やっぱりつ♡ この穴最高お♡ んあつ♡ キミはいいオナホになりますよ♡ んつ♡ あんつ♡ 私が保証しますつ♡ んんつ♡」

「ふふつ♡ ふふふふつ♡」

「ああ、そうだ……♡ キミに、いいことを教えてあげましょう……♡ キミが信仰している光の女神様ってどんな方か、気になりませんか? んつ……はあ、ふふつ♡ とても美しく聰明な方だつたのですが……今はふたなりに堕ちて、真なる神の孕み女となつていますよ?♡」

「そのおかげで、女神の加護を受けた天使も、全員ふたりに塗り替えられてしまつてい  
るのです♡」

卷之三

「そうして天使たちは全員、快樂を信奉する魔物の一員になつちやつたんですよねえんっ♡ 信徒くんは先ほど、私のオナホになることを望みましたよね？ ふふふ♡」

「つまり、キミはこれから魔物のオナホ人形として生きていくのですよ。普通の

魔物と交わつたら魔物に堕ちてしまうんですけど……天使の祝福をこれだけ受けたら、人の形を保つたまま、私に奉仕する存在になれます…………♥

よかつたですね？  
ふふふふふふふふ

「ひと目見たときから、キミには期待していたんですよ♡ この子は絶対いいオナホ人形になるつて……♡ 私の目に狂いはなかつた、ということですねえ♡ んあつ♡」  
「はあ、はあー……あ、んあ……フー、フツー……ん、んん♡ さあ、信徒くん♡ 人間からオナホに堕ちたお祝いですよお♡ んんつ♡」

「とっても可愛いオナホ、ふたなり天使のザーメンミルク専用のお尻の穴に祝福を♡ 欲望に墮ちただらしないキミにふさわしいどうつどろでくさーい白濁液でぜんぶぜんぶ満たしてたげます♡」

「んあっ♡ はあはあ、ふふつ♡ ホントに、気持ちいいオナホですねえ♡ はあ、はあ、ふう……♡ 何度も犯してあげますからねえ♡ キミも嬉しいですよね？♡ ああ……♡ 見てください……♡ 私のふたなりチンポは、キミをずっと犯せること、喜んでますよ？♡」

「全然萎えないの♡ ガツチガチの硬いまま……♡」

「… ちんぽは和のやつだったので… ちゃんとマーキングしてあります… 」  
「… ちんぽ… お顔に塗りたくられるのも… 気持ちいいでしょう?」  
「… そんなにトロけた顔をして… ああ… いいい… 」

一おちんほい(ほい)欲しだんですね。 体中いろいろなところ……スポーツがされたくて キミの大好きなおちんぽ……舐めていいですよ

「はい、どうぞ♡ きちんとお口で奉仕、してください……♡」

「んんっ♡ はあ、ふふっ♡ お口で、するのも……んっ♡ 上手になりましたねえ♡ ん♡ はあ、くうっ♡ ためらわず、喉奥までおちんぽ飲み込めて、偉いですよお♡」

「そんなキミにお知らせです♡」

「信徒くんの体を、精液を摂取してさえいれば生きていられる体に改造しました。ふふふ、オナホにぴったりな祝福でしょ？」

「キミはもう、奉仕さえできれば……ほかに何もせずに生きて行

ええ、生まれ変わったキミなら喉奥ガンガン突かれても、気持ちいいですよね？

たくさんズボズボして、精子いっぱい出してあげますねえ！」

「ふー、つぶあ、んんっ……はあ、はう……ふー、ふーっ、んっん

このオナホ、上の穴も、すごく、気持ちいいっ♪ んっ♪ んぐうつ♪  
いつもっ♪ 絡みついて離れないの♪ いいっ♪ おちんぽ気持ちいいっ♪」「  
ガンガン突

「ずっと締め付けられるの、気持ち、よすぎるっ♡ んんんっ♡ 気持ちいいのきてるっ  
止まらなくなつうやうつり ああつり まさつり 青子出るつり 出うやううつりー

「はあはあ、んんっ♡ ああ♡ この、体勢もいいですねえ♡ んあつ♡ 抱え上げたまま、おちんぽ、下からガンガン突き上げれるの、すごくいいです♡ ふふふつ♡ キミのおちんぽ……♡ もう壊れちゃったみたいですね♡」

「あんつ♥ 突き上げるたび、ひゅうひゅうて精子、飛び出しちやつてます♥ 私の体に全部、かかっちゃつてますよ……♥ ホント、だらしのないおちんぱ……♥ ふふつ♥ 最初は痛がつてたのが嘘みたいですねつ♥ んつ♥ ああつ♥」

ふたなりチンボ、気持ちいいですねえ♡ あんあん喘いで♡ ホント可愛い♡ これが

ホント、人間って愚かですよねえ。おちんぽには誰も逆らえないんですよ。キミも私

〔二〕

「ハア♥ ハアツ♥ ! ! .....くうつ ! ん♥ んふう♥ ! ! キミはもう一ちら側ですか  
らね♥ 気が済むまで中出し♥ してあげますよお♥」

「ああ……♡ また、イきそ……♡ 出します♡ 出しますねえ♡ んんんつ！♡  
あつ♡ イクつ、イクうう……♡ んんんんんんつ……♡」

「んつ♡ ああつ……♡ ふう……♡ まだまだ、出したりないですね♡」「  
キミのアナルが心地よすぎるのが悪いんですよ?♡ ふふふつ♡ ほら、次は四つん這  
いになりなさいな♡ 後ろから突いてあげます♡」

「あらあらあら♡」

「ちゃんとおねだりできて偉いですねえ♡ アナルを自分の指で開いて、くぱくぱさせち  
やうなんて……♡ ふふふ♡ ほおら♡ キミの大好きなおちんぽが入っていきますよお  
……んんつ……♡」

「奥までつ♡ 一気に、突かれて♡ 獣みたいに吠えながらするの、気持ちいいですよね  
え♡ んんつ♡ はあ、ああつ……♡ 気持ちいい♡ 気持ちいい♡」

「ふふふつ♡ やっぱり、オナホのキミには、アナルズボズボされた方が、感じるんですね  
よねえ♡ またキミのだらしないチンポから、精液垂れ流しになつてますよお?♡ アナ  
ル突かれて♡ 喘いで♡ ぴゅっぴゅーつて♡ 精液止まらない、ダメダメチンポ♡ ふ  
ふふつ♡」

「ああ、そうだあ♡」

「私のおててで、キミのおちんぽシゴいてあげますよ♡ んふふつ♡ あつ♡ すごいす  
ごいっ♡ さつきよりも、アナルの締め付け強くなつてますよお♡ んんつ♡ 射精も、  
強くなつてますね♡」

「びゅくびゅくつて、床に勢いよく出てるの、すごいです♡ いっぱい跳ねちゃつてます  
ねえ♡ ふふふつ♡ んんつ♡ ダメダメチンポ壊れちゃつた♡ 精液垂れ流しになつ  
てますよお♡」

「普通の人間ならすぐに死んじやうんでしようけど……♡ キミはいっぱい祝福されてしま  
すからね♡ 頭壊れるくらいの快感♡ ずっと味わつても♡ 死ぬほど好きなだけ射精し  
ても♡ 死ぬことはないので♡ 安心してくださいっ♡ ふふふつ♡」

「よかったですね♡」

「んあ♡ ふあつ♡ !……んつ、んあつ、はう……つふあ、んんつ♡ !……ああつ♡  
また、出るつ♡ でるうつ♡ イクつ♡ 奥につ、全部つ♡ 出るうううつ……♡」

「んんんんんんんんんんんつ……♡」

「んあつ♡ はあ、はあ、ふふふつ♡ まだまだいきますよ?♡」

「自分で脚を持つて、股を開くのです♡ ああ♡ いいですねえ♡ その恰好も素敵です  
よ♡ いっぱいシテあげます♡」

「あああつ♡ いいつ♡ ガンガン押しつぶすのも♡ 気持ちいいですよおつ♡ んぐつ  
オナホいいつ♡ すぐ、具合がいいですつ♡ んあつ♡」

オナホレ~~レ~~す~~レ~~く異常かれです~~レ~~んあ~~レ~~】

心……あ  
あ……あー……ふくしゅ キミも私は押し入る

よう?♡ んんつ♡ そんなキミに、いいこと教えてあげますね♡」

「新しいおもちゃの人間を増やすため、キミのアナルは種付けができるようになつていま  
すよ♡ 天使の祝福のおかげですね♡ んあつ♡ いっぱい中出ししてあげますから♡

私の子種で、孕んでくださいね。え♥」

「そんなに種付けされたかつたんですか？」ふふふ  
「アツ♡！！……くうつ！ ん♡ 種付けされるためにつ♡」可愛い♡ ハア、ハア  
「やつてるんですねつ♡」押しつぶされてつ♡ 感じち

「キミのこと、オナホにできてよかったです♡ んあつ♡ 孕んでも♡ 何回でも使つて  
あげますね♡ くつ、んんつ！♡ ああつ♡ 精子つ♡ 登つてきましたよお♡ んんつ  
はあはあ、しつかり孕んでくださいね♡」

「んあつ♡ はあ、はあ、はああ……全部、こぼさずに、注いであげますねえ……♡ んつ♡ はあ……ふふふふ♡ 上から潰されながら、種付けされるのも好きなんですね♡」

はおふん……セミの体が喜んで震

「さて、そろそろ行きましょうか……。他の子たちも、姉さまたちがオナホ人形に堕としてあげていることでしょう。神殿の広間に戻つて、また楽しみましょうね……。」  
「そのあとは……村に戻つても、天界でも、いっぱい、いっぱい。擦り切れるまでオナ

ホとして使つてあげますからね♡」

シーン6 エピローグ

ウルト「ああ、イリス……そつちはどうでした？」

イリス「ええ、ええ、すべて順調ですよ、お姉さま方……そちらの子どもたちはどうだったのですか？」

エリス「もちろん全員失格よ……ふふふふつ♡ 今はみんな、可愛いオナホ人形なの♡」

イリス「ああ♡ そうなのですね……♡ では、みんなに……ご褒美と祝福を与えないといけませんねえ♡ ふふふふ、ふふふふふふ……♡」